

学会発表報告

英語ボランティア養成講座の動機づけに関わる調査研究

A Research Study on Motivation in Designing English Courses for Volunteers

江連 和章

EZURE Kazuaki

飯田 深雪

IIDA Miyuki

1. 学会研究発表

学会：第41回全国語学教育学会年次国際大会(41st Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition)

発表題目：Designing English Courses for Volunteers(英語ボランティア養成講座の構想)

発表者：飯田深雪 江連和章

日時：平成27年11月22日

場所：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」(静岡県静岡市)

2. 研究発表の位置づけと目的

本発表は、神奈川県立国際言語文化アカデミアが異文化理解支援事業において実施するプロジェクト研究「コミュニケーション支援ボランティア養成のための教材の研究開発」(平成27年度から平成29年度までの3年度計画)の一環として位置づけられる。国際言語文化アカデミアが新規実施するコミュニケーション支援ボランティア養成講座を紹介すると共に、同講座の受講者の「動機づけ(motivation)」に関わる調査研究を発表することを目的とする。

3. 発表概要

前半:コミュニケーション支援ボランティア養成講座の紹介

平成27年度から新規に設置、実施しているコミュニケーション支援ボランティア養成講座の概要について、その目的や構想の独自性を強調するかたちで英語講座を中心に紹介し、参加者からの意見や情報提供を募った。はじめに、「国際言語としての英語」(English as an International Language)、神奈川県の多文化化とグローバル化、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催等の背景のもと、「地域において、外国人観光客や外国籍県民等に対し、その文化的背景の相違も理解した上で自ら積極的に声をかけ、外国語を用いてサポート」する実践的な人材(「コミュニケーション支援ボランティア」)の重要性と必要性について論じた。続けて、(1)初歩編、基本編、発展編からなる講座レベルと、英語以外の外国語講座も含めたカリキュラム編成について、(2)外国語能力だけでなく文化的特徴や

相違の理解、そして街角、飲食店、ショッピング街、観光地等、特定場面を想定しての演習を重要視する講座内容の独自性と、実践的コミュニケーション能力の育成を核とする使用教材について、更に、(3)講座修了者が外国語を用いたボランティア活動の実践にすすむための構想と課題等について説明を行った。

後半：講座受講者の動機づけに関わる調査研究

コミュニケーション支援ボランティア養成のための講座内容および教材を構築する上で鍵となる動機づけをテーマに、受講者へのアンケート調査結果に基づく検証及び考察を行った。アンケート調査は、平成27年度に実施した英語初歩編講座計6クラスの受講者に対して、講座の開始時と終了時に実施したもので、主として①英語を用いたボランティア活動を実践する意欲(動機づけ)、②現時点での英語のコミュニケーション能力、③英語コミュニケーション能力向上にむけての学習意欲の3項目を中心に質問し、講座の受講前と受講後における意識の変化を量的かつ質的に調査した。その結果、全体的には受講後には3項目とも向上する傾向が確認された。発表時にはこの調査結果を具体的に提示し、3項目の間の相関性や、ボランティア活動の実践以外の動機も含めた観点からの講座の内容や編成に関する課題等について考察をおこなった。

4. 今後に向けて

発表後には参加者より、「外国語を用いてボランティア活動を実践する人材の育成」という本講座の独自性、カリキュラム編成の詳細、講座修了後の実践活動へのつながり、本講座のような明確な目標を設定する「特定目的のための英語講座」(English for Specific Purposes)における動機づけの重要性や有効性、アンケート調査のあり方等に関する質問、有用な意見や情報提供を得た。特に、今回検証、考察に用いたアンケート調査は平成 28 年度の本格的実施に向け試行的におこなったものであり再検討課題が多分にあるため、今回得られた意見等も踏まえ改善を図る必要がある。本講座においては「受講者の動機づけ」の扱いは中核的課題であるため、今後の講座展開およびプロジェクト研究の進展に合わせて調査研究を継続する。